

## 国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和2年度第4回）議事概要

日 時：令和2年8月28日（金）10：00～11：30

場 所：国立がん研究センター 管理棟 第1会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、間野博行理事、児玉安司理事、松本洋一郎理事、北川雄光理事、  
飯野奈津子理事、小野高史監事、増田正志監事、島田中央病院長、大津東病院長

冒頭 飯野理事より理事就任に伴う挨拶があった。

### I. 前回（令和2年度第3回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 前回議事録署名人を松本理事と増田監事に依頼。

### II. 報告事項

#### 1. 組織規程の改正について

資料に沿って報告された。

##### 【主な意見等】

- ・ 両病院ともに臨床研究中核病院として臨床研究の推進を求められており、臨床研究支援部門の強化は非常に重要である。現在は研究推進室、データ管理室ともに大所帯となっているので運営管理の点からも主任を1人ずつ置くという意図である。また、院内における医療機器の安全管理体制の充実は重要であり、管理する技師の追加も必要である。

#### 2. 産学連携・知財関連実績報告

資料に沿って報告された。

##### 【主な意見等】

- ・ 知財をメンテナンスするために特許支出は大きくなり、収入で賄いきれないのが一般的な構造だと思う。特許支出の数値が低く収まっているのは何か理由があるのか。
  - 有益な特許だけの申請や共同研究先から申請していただく等の対応をしている。
  - 取引する2つあるいは複数の組織が合併した際に、知的財産権を得意にしている法律事務所からインハウスの形でサポートを得ながら、それぞれの組織の知財をどのように分配するかを決定するという組織再編を伴う知財の処理に注目が集まっている。がん研究センターが実施してきた取り組みは非常に優れているため、アカデミア等では組織再編や子会社設立を伴う知財の移転と活用、企業化といった動きがある。この点についての備えや人材の状況等について考えがあれば教えていただきたい。
  - センター発ベンチャーの必要性が議論されており、東病院では先行例も出てきている。

引き続きアカデミアの競争的資金でハイリスクな部分を賄い、それをいかにベンチャーキャピタルや大手の会社に導出していくかということが、次の課題になってくると思う。人材については色々なセクターとの交流も含め、次期中長期計画等で議論していく予定である。

-研究者のインセンティブが、公務員としての固定給をもらっている状態から新たな会社を共同設立したりするものになってきており、このようなオファーが、がん研究センターのような優れた機関には殺到してくると思う。動きの早さについていけるだけの人員増強等、がん研究センターが先駆者となることが大事だと思う。

### 3. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

### 4. 広報実績等

資料に沿って報告された。

### 5. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

### 6. 7月分医業件数等

資料に沿って報告された。

#### 【主な意見等】

・短期的な COVID-19 の影響をがん研究センターの長期的な財務改善計画にどう反映し、どのようにして中長期計画の達成に繋げるのか、何か考えがあれば教えていただきたい。

-COVID-19 が診療に与える影響がどのくらい続くのか、特に中央病院の場合は患者を受入れながら 9 割の病床を稼働させたときにどうなるのか、次期評価をして長期的な財政計画に反映する必要があると思う。

-都内の大学病院等に比べると両病院ともに圧倒的な成績の良さである。総合病院を見ると慢性疾患、良性疾患の手術患者さんが依然として戻ってこない状態なので、がん研究センターの両病院は共に素晴らしいと思う。

-コロナ渦の困難な状況でも両病院ともに最高水準の医療の質を維持しながら財政的にも安定していると思うが、重症化する患者さんが増える頃かと思うので警戒感をもって注視し現在の好調を維持していただきたい。

### 7. 新型コロナウイルス患者の受入れ等に伴う影響について

資料に沿って報告された。